10	２０２２年ＪＯＣジュニアオリンピックカップ 兼　第33回ＩＳＳＦジュニアライフル射撃競技選手権大会	《G2》

１．大　会　名　２０２２年ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
　　兼　第３３回ＩＳＳＦジュニアライフル射撃競技選手権大会
２．主　　催　公益社団法人　日本ライフル射撃協会
３．主　　管　埼玉県ライフル射撃協会、日本学生ライフル射撃連盟、全国高等学校ライフル射撃部
４．後　　援　（公財）日本オリンピック委員会
　　埼玉県・埼玉県スポーツ協会・長瀞町・長瀞町教育委員会・長瀞町スポーツ協会
５．期　　日　2022年９月9日（金）～11（日）
６．会　　場　埼玉県長瀞射撃場
　　埼玉県秩父郡長瀞町大字野上下郷2395-1　（Tel 0494-66-1111）
７．開　会　式　９月９日（金）　８：３０～　（予定）
８．閉　会　式　９月１１日（日）　競技終了後　（予定）
９．競技日程･種目　【男子】１０ｍエア・ライフル少年男子立射６０発競技（AR60J）
　　１０ｍエア・ピストル少年男子６０発競技　（AP60J）
　　ビーム・ライフル少年男子立射６０発競技（BR60J）
　　ビーム・ピストル（少年男子６０発競技（BP60J）
　　【女子】１０ｍエア・ライフル少年女子立射６０発競技（AR60WJ）
　　１０ｍエア・ピストル少年女子６０発競技　（AP60WJ）
　　ビーム・ライフル少年女子立射６０発競技（BR60WJ）
　　ビーム・ピストル少年女子６０発競技（BP60WJ）

日程	競技種目	競技時間
９月９日（金）	AP60J　(1)	9:45～11:00
	AP60WJ (1)	11:40～12:55
	AP60J　(Final)	13:35～
	AP60WJ (Final)	14:55～
	BP60J　(1)	9:45～10:30
	BP60J　(2)	11:05～11:50
	BP60WJ (1)	12:25～13:10
	BP60WJ (2)	13:45～14:30
	BP60J　(Final)	15:25～
	BP60WJ (Final)	16:25～
	用具検査	8:30～17:00
９月10日（土）	AR60J　(1)	9:00～10:15
	AR60J　(2)	10:55～12:10
	AR60J　(3)	12:50～14:05
	AR60J　(Final)	15:00～
	BR60WJ　(1)	9:00～9:45
	BR60WJ　(2)	10:20～11:05
	BR60WJ　(3)	11:40～12:25
	BR60WJ　(Final)	13:30～
	用具検査	08:30～17:00

日程	競技種目	競技時間
９月11日（日）	AR60WJ (1)	9:00～10:15
	AR60WJ (2)	10:55～12:10
	AR60WJ (3)	12:50～14:05
	AR60WJ (Final)	15:00～
	BR60J　(1)	08:30～09:15
	BR60J　(2)	9:55～10:40
	BR60J　(3)	11:20～12:05
	BR60J (Final)	13:15～
	用具検査	08:00～

10．競技規則　ライフル射撃競技規則　最新版による。
11．使用標的　ＡＲ・AP種目：電子標的（SIUS社製）
　　ＢＲ種目：ＢＲ・BP公認標的装置　　※標的装置は主催者側が用意します。
12．参加資格　2022年１２月３１日で満２１歳未満の者
13．参加制限

種目	合計	高校	学連	一般(小中学生含む)
AR60J	７０名	（４０名）	（２０名）	（１０名）
AR60WJ	７０名	（４０名）	（２０名）	（１０名）
BR60J	７３名	（４０名）	（　３名）	（３０名）
BR60WJ	７３名	（４０名）	（　３名）	（３０名）
AP60J	２２名	＊ランキングによって選考		
AP60WJ	２２名	＊ランキングによって選考		
BP60J	１５名	＊ランキングによって選考		
BP60WJ	１５名	＊ランキングによって選考		

＊１人１種目の参加とする。
　参加制限の内訳は、高校（専修、専門学校含む）・学連・一般とする。
＊割り当て人数については
　○高校（専修、専門学校含む）として、全国高校ライフル射撃競技選手権大会出場者の

ＡＲ種目４０名、ＢＲ種目40名の者に参加資格を与える。備考欄に順位を記入する。
○学連については、春季各学連ライフル射撃選手権大会の記録等を参考にして日本学生ライフル射撃連盟が選抜して申し込むこと。
○一般（小・中学生含む）の参加については、前年度当大会以後の大会より当該年度申込み締切日以前の大会の成績を備考欄に記入することとする。この上位の者から参加を認める。
（大会とは、日ラ主催の大会と関連事業関係の大会をいう）
尚、ＡＲ・ＢＲは、以下の基準点をクリアすることを原則とする。
基準点　AR６０J/WJ　５８５点　　BR６０J/WJ　６００点
○ピストル種目の割当は行わない、参加者多数の場合、締切直近のランキング順位により参加制限を行う。

14. 表　　彰 (1)各種目１位の者には選手権証を授与し、２位・３位の者には賞状を授与し、
１位金メダル、２位銀メダル、３位銅メダルを授与する。
(2)各種目とも、４位～８位には賞状を授与する。
(3)参加選手から、男女各１名にＪＯＣカップと賞状を授与する。

15. 参　加　料

ＡＲ・AP種目	６，０００円	小、中、高生　５，５００円
ＢＲ・BP種目	５，０００円	小、中、高生　4，５００円

16. 参 加 申 込 所定の用紙に、所属する**都道府県ライフル射撃協会及び学生射撃連盟**で取りまとめ、
8月10日必着で下記宛に申し込むものとする。参加料は期日までに下記口座宛に振込。
注：上記以外の団体、個人でのエントリーは受け付けない。
※参加料振込先：埼玉りそな銀行　越谷支店　普通4823619　タナカリョウイチロウ
大会記録欄には以下の①もしくは②を記入すること。
①ＡＲ・ＢＲ種目に参加希望の高校生は全国選手権の順位を　記入し、
一般の選手は参加制限に見合う大会名と成績を記入すること。学連の選手は選考の材料となった点数を記録する。
②ＡＰ・ＢＰに出場希望の選手は、日ラＨＰに公開されている直近のランキングを記入すること。
＊申込みは、Email,FAX,もしくは郵送。
＊申込先　〒334-0015　埼玉県越谷市花田718-57　埼玉県ライフル射撃協会　田中　僚一郎
Tel 090-3310-7775　Fax 048-966-7541　Email ： rifle@saitama.email.ne.jp

17. 交 通 ・ 宿 泊 各自手配・各自負担。

18. 銃 器 ・ 弾 薬 (1)銃器・弾は各自持参のこと。尚、銃砲所持許可証・日ラ会員証及び射手手帳・競技用具を忘れずに持参すること。
(2)BR/BP標的装置は主催者側が用意するが、BR/BP銃は原則として各自持参のこと。
(3)BR/BPを借りたい人は、参加申込時に申し込むこと。
(4)ＢＲ銃の充電器は、主催者側が用意しますが、バッテリーは各自持参のこと。但し、バッテリーには必ず氏名を記入すること。

19. 公 開 練 習 ９月８日（木）AR 9:00～15:00　BR・BP 13:00～16:30　受付にて申し込み（射座使用料各自負担）

20. 大 会 責 任 者

大会委員長	松丸　喜一郎
競技委員長	松田　信義
テクニカルデレゲート	田中　僚一郎

21. そ　の　他 (1)各加盟団体の責任者は、本要項を協会員に周知徹底させること。
(2)エントリー後のキャンセルについては、必ず大会運営責任者に前々日までに連絡の事、参加料は振込手数料を差引き、差額を振込にて返金する。前日以降は返金しない。
自然災害等で大会自体が中止、延期になった場合の参加費は返金する。
ただし、交通費、宿泊費等は負担しない。
(3)参加者の個人情報は大会運営を円滑にする目的で、プログラムへの掲載や記録の掲示やHP掲載等に利用し報道機関等へも公表することがあります。肖像権に関して、主催・主管団体に認められた者によって撮影された競技会の様子は、広報活動の為、協会HP・YouTube・その他広報活動用に写真または動画が使用されることがありますので御了承ください。

22. **【スポーツ界における暴力行為根絶宣言】**

本宣言は、スポーツ界における暴力行為が大きな社会問題となっている今日、スポーツの意義や価値を再確認するとともに、我が国におけるスポーツ界から暴力行為を根絶するという強固な意志を表明するものである。スポーツは私たち人類が生み出した貴重な文化である。それは自発的な運動の楽しみを基調とし、障がいの有無や年齢、男女の違いを超えて、人々が運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、絆(きずな)を深めることを可能にする。さらに、次代を担う青少年の生きる力を育むとともに、他者への思いやりや協同精神、公正さや規律を尊ぶ人格を形成する。殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的制裁、言葉や態度による人格の否定、脅迫、威圧、いじめや嫌がらせ、さらに、セクシュアルハラスメントなど、これらの暴力行為は、スポーツの価値を否定し、私たちのスポーツそのものを危機にさらす。フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツの価値とそれらを否定する暴力とは、互いに相いれないものである。暴力行為はたとえどのような理由であれ、それ自体許されないものであり、スポーツのあらゆる場から根絶されなければならない。しかしながら、極めて残念なことではあるが、我が国のスポーツ界においては、暴力行為が根絶されているとは言い難い現実がある。女子柔道界における指導者による選手への暴力行為が顕在化し、また、学校における運動部活動の場でも、指導者によって暴力行為を受けた高校生が自ら命を絶つという痛ましい事件が起こった。勝利を追求し過ぎる余り、暴力行為を厳しい指導として正当化するような誤った考えは、自発的かつ主体的な営みであるスポーツとその価値に相反するものである。今こそ、スポーツ界は、スポーツの本質的な意義や価値に立ち返り、スポーツの品位とスポーツ界への信頼を回復するため、ここに、あらゆる暴力行為の根絶に向けた決意を表明する。